

[機構について](#) > [情報提供活動](#) > [動画で見る企業事例「企業未来!チャレンジ21」](#) > [2003年放送分](#) > 9月20日放送分 技術を磨き異業種から学ぶ～機械部品メーカーの試み～

9月20日放送分 技術を磨き異業種から学ぶ～機械部品メーカーの試み～

9月20日 (TX・TVO・TSC)

21日 (TVA・TVH・OX・TVQ・RCC・TVQ・OTV)

22日 (BSJ)

サブミクロン(1/10,000ミリ)単位という優れた鏡面仕上技術を持つ香川県の(株)森川ゲージ製作所(資本金2,400万円、従業員45名)は、「中小企業が新規事業に参入するには異業種交流を活用すべき」と、8社共同でのロボット開発を初めとして、異業種交流により、様々な分野で特色ある新製品を打ち出している。限られた経営資源という制約を他社との連携で打破する当社の活動を紹介する。

技術を磨き異業種から学ぶ ～機械部品メーカーの試み～

[視聴覚教材No. TV15-25](#)

[動画配信中\(新規ウィンドウ\)](#)



ロボットと一緒に志垣さん登場。このロボットはセンサーで人の動きを認識して、まねて動くことができる。

今日は香川県の(株)森川ゲージ製作所を訪ねる。こちらがものまねロボットの産みの親である森川社長。





しかし、この会社ではロボットを作っているわけではなく、精密機械部品を主に作っているのだという。

コア技術の精密研磨。研磨面をくっつけると、まるで磁石のように離れない。このような真平らな面を作るのは非常に難しい。



機械化が進んだ今でも最終仕上げは熟練した技術者の技で決まる。この会社の強みは優秀な技術者が数多くいることだ。



国内最高水準の技能を有する卓越した技能者「現代の名工」として表彰された久保工場長。



志垣さんも研磨に挑戦。だが、平面になったか全くわからない。久保工場長はサブミ



クロン(1万分の1mm)の差を感じとる。これは身体で習得するしかないのだという。

壁一面に飾られた社員の皆さんの合格証書。社員の能力開発として、資格取得を奨励している。

POINT: 積極的な資格取得で技術向上



21歳までの若い方たちの技能を競う「技能オリンピック」の全国大会出場のために訓練をする鶴見さん。奥で指導しているのは前年度の大会に出た先輩の森さん。

技術を教わった順に並んでいただいた。技能の伝承が社内ですっかりと行われている。

POINT: 技術力は伝えてこそ会社の財産になる



異業種交流にも積極的に参加。その結果、車いすのほか様々な新製品が生まれ



た。あのロボットは異業種交流組織の参加企業で役割分担し、作り上げたものだった。

POINT: 異業種からの情報で新製品開発と社内技術力が向上



森川社長とともに「ラックプラザ21」を立ち上げた津郷氏は、異業種交流について「人的交流だけでは価値がない。思いもよらない情報が入ってくるのが魅力。」と語る。



非常に高い技術を伝承しつつ、異業種との交流を持つことでそれまでに無かった技術を自社のものとして蓄積し、伸びている企業であった！

[ひとつ上の階層へ](#)

[利用規約](#) [法的事項](#) [プライバシーポリシー](#)

Copyright©2007 Organization for Small & Medium Enterprises and Regional Innovation, JAPAN